

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)旧大名小学校跡地活用事業

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.8
Q1 室内環境							0.40			3.2
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.0	0.40	3.1	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.74	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.26	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		客室: Lr=35				-	-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		事:床(タイルカーペット)、天井(ロックウール)の二面に採用				3.1	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						3.3	0.35	3.2	1.00	3.3
2.1 室温制御						3.6	0.50	4.2	0.50	
1 室温		客室: 夏期24°C、冬期23°C				3.0	0.38	4.0	0.57	
2 外皮性能		断熱性能の高い建材の採用				4.1	0.25	4.5	0.43	
3 ゾーン別制御性		ゾーニング、冷暖房の選択が可能な空調システムを採用				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		加湿・除湿機能を有し、夏期50%、冬期40%の設定				4.0	0.20	4.0	0.20	
2.3 空調方式						2.4	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						3.2	0.25	3.8	1.00	3.2
3.1 昼光利用						2.9	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		ホ: 2.5%以上、客室: 1.25%以上				2.9	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						2.3	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		事: 自動照明制御、客室: 室内の複数部分に対しリモコンで細かい制御が可能				4.4	0.25	5.0	0.25	
4 空気環境						3.2	0.25	3.2	1.00	3.2
4.1 発生源対策						3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気						3.5	0.30	3.6	0.38	
1 換気量		事: 30m³/h人以上				3.7	0.39	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	0.21	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		ホ・客室: 給気は各種排気と異方位かつ、離隔距離6m以上を確保				3.6	0.39	5.0	0.33	
4.3 運用管理						3.6	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		事: 中央によるCO ₂ 常時監視				5.0	0.32	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.68	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.9
1 機能性						3.9	0.40	4.6	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.9	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		客室: ツイン40㎡以上				3.0	0.21	5.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		客室: Gitクラスのブロードバンド環境を整備				3.0	0.21	5.0	0.50	
3 バリアフリー計画		事・ホ: 建築物移動等円滑化誘導基準を満足				4.7	0.57	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.4	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観		事: 天井高2.8m、十分な大きさの窓、客室: 2.75m				4.0	0.21	5.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		事: 執務室の1%以上のリフレッシュスペース・自販機置場の確保				5.0	0.21	-	-	
3 内装計画		事: 建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画等				4.4	0.57	3.0	0.50	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の採用等、清掃のしやすさに配慮した設計				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.3	0.30	-	-	4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法の50%以上の割増				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		制振装置の導入				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材の採用				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						5.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		災害時の重要度の高い系統の優先運転計画等				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		給水の系統分け、汚水層の設置、井水・中水利用等				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機・UPSの設置、受電設備の二重化等				5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS				5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水対策、UPSの設置等				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	3.2	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.19	3.4	0.50	
1	階高のゆとり	事:基準階階高4.1m、客室:基準階階高:3.6m	5.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	事:壁長さ比率0.3未満、客室:壁長さ比率0.3未満	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		事:床積載荷重5000N/m ²	4.0	0.19	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.62	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		積極的な外構・建物緑化等	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみ調和に配慮した景観計画等	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間提供による地域貢献、防犯性への配慮等	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	緑地の確保、排熱機器の設置位置への配慮等	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.90	2.5	0.50	-	-	2.5
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別にエネルギー消費量を把握・分析可能な計画	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水		自動水栓、節水コマ、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	市の再生水利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		F=325以上の鋼材、BCP柱の採用等	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		長尺シート(階段等)、木デッキ(テラス)、断熱材(外壁)、OAフロア(事務室等)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		1種類(塗床材)採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ハンプロンを採用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器を採用し、CO2を低減	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	自主的な対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分なスペースの駐車・駐輪場確保、渋滞緩和に配慮した導入計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	